

R-18
Adults Only



勇者が僕の村に来た。

◆登場人物

勇者
すごく強い。

アーニヤ
ミアの母。未亡人。

ユテ
勇者の従者。

ミア
テルの幼なじみ。

テル
勇者に憧れる村の少年。
ミアに気がある。





勇者

教会から超越者として
認定された者達は
人々から敬意をこめて
そう呼ばれている

彼らは人とは
かけ離れた力を持ち
世のため人の為に
その力を使う

多くの人が
そうであるように
僕も勇者に憧れていた

あの日が
来るまでは――



うん
見えるよ!

すごいなあ
本当に勇者様が
この村に
来てるんだね!



どう?
見える?



…テルってさ
本当に勇者好きだよな

そりゃ誰だって
勇者様には
憧れるよ!

ミアも
そうでしょ?

ううん…
私はテルほどじゃ
ないなあ

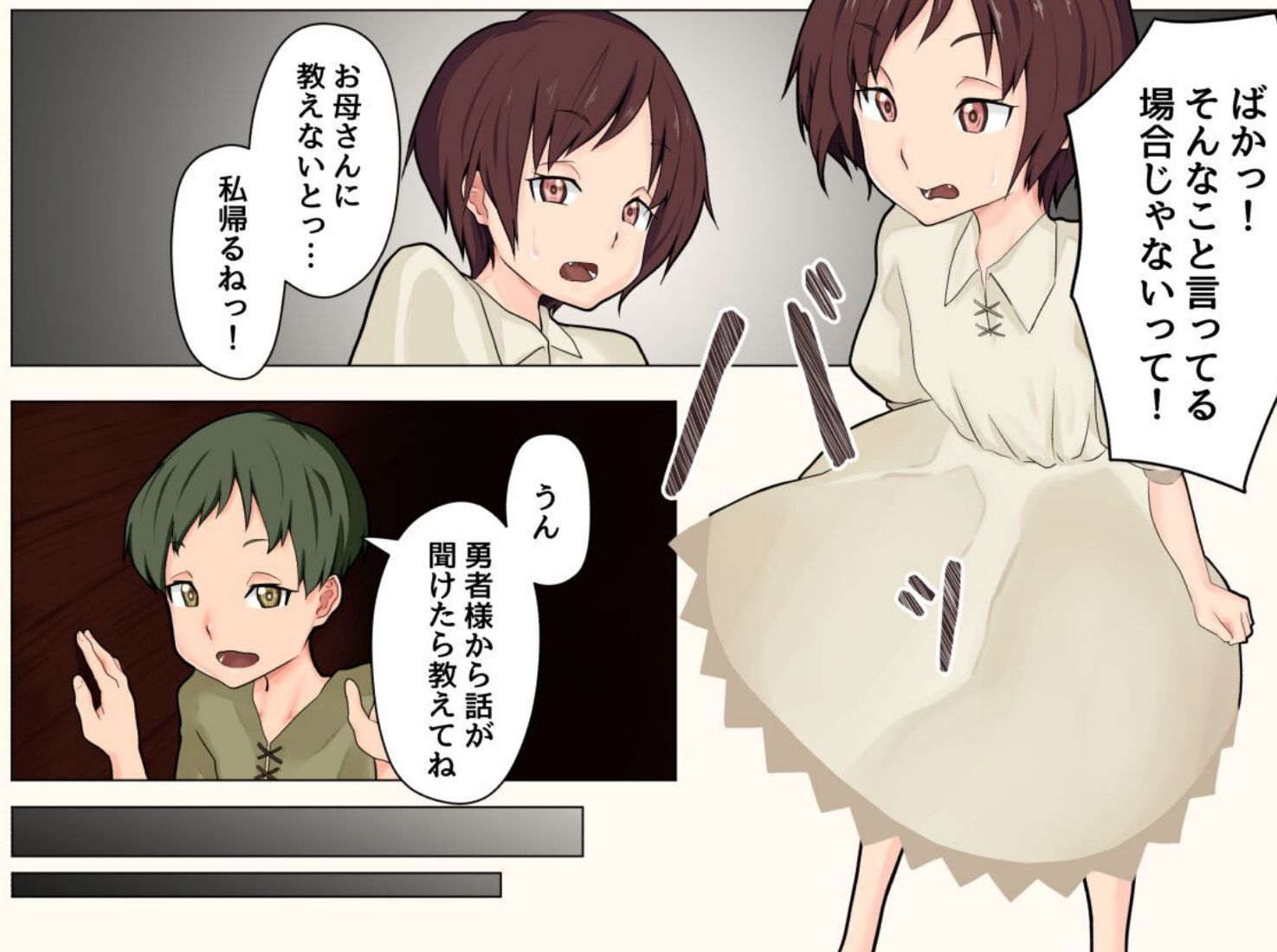


—では勇者様
魔獣の痕跡を
発見した者の家
ご案内いたします

っ!
勇者様がミアの
家に来るって…

ええっ!
家に来るのっ!?

すごいよミア!
勇者様の話を
直接聞けるかも…



ばかっ!
そんなこと言ってる
場合じゃないって!

お母さんに
教えないとっ…

私帰るねっ!

うん

勇者様から話が
聞けたら教えてね



いつも
この時間になると
遊びに来るのにねえ

風邪でも
ひいたのかしら

っ!

僕心配だから
見てくるよ!



テル?
今日はミアちゃん
来てないの?

うん
まだみたい



あ、あの

僕ミアを
呼びに…

どうしたの?



あら
テル君



あっ
ミアね

ごめんなさい

あの子いま
勇者様のお世話で
手が離せないの





そうなんだ

あつ

じゃあ勇者様に
会わせてもらえたり
とかつて…



そうねえ

でも今は
勇者様もお忙しい
みたいだから…

それは
また今度に
しましょうか？

う、うん
分かった…



えっ!?
勇者様が
ここに居るのっ!?

そうなの
ほら、この村って
宿がないでしょう？

まさか勇者様に
野宿なんて
させられないし

私の家は
夫も亡くなって
部屋が余ってるから…



それから僕は毎日
ミアとアーニヤさんの
家を訪ねたが



勇者様どころか
ミアとも会えない日が
しばらく続いた



結局僕はその日
アーニヤさんに
言われるがまま
家に帰った



そんなある日ー

これほど恐ろしい魔獣が村の近くにいたなんてのお

勇者様が来てくれて本当に良かったわい

そうですねえ



あれ？

でも魔獣を倒したなら勇者様はもう王都に帰っちゃうんじゃないや…



こんなに大きな魔獣に勝っちゃうんだから

やっぱり勇者様はすごいや…!!

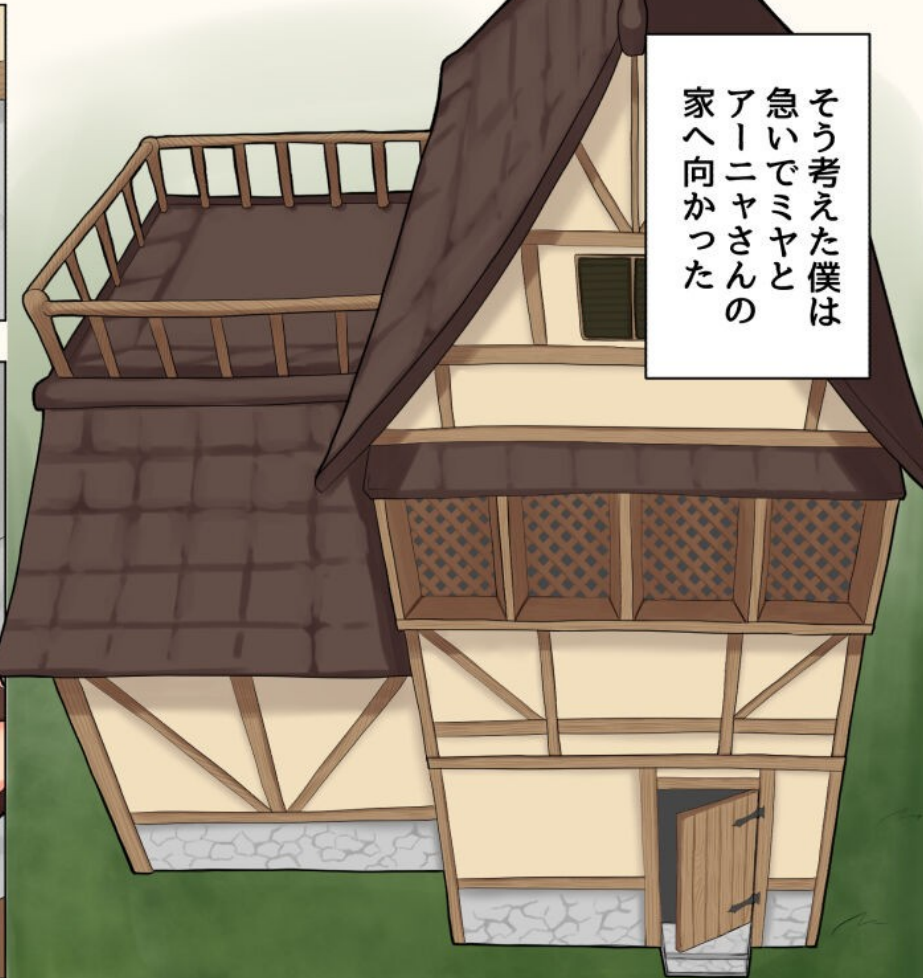


？

開いてる…



アーニヤさん？



そう考えた僕は急いでミヤとアーニヤさんの家へ向かった



ほら
アレやってみるから
ねだってみる

はいっ♡

ゆ、勇者さまの魔力で
私のだめまんこっ♡

舐めて
くださいっ♡

おっ♡

娘がいるのに
せーしおねだり
しちゃう
ばかまんこっ♡

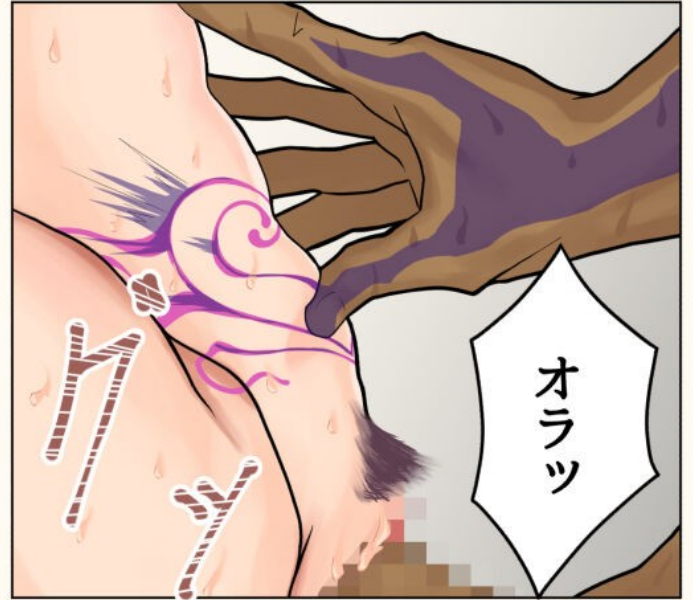
いっぱいお仕置き
してくださいっ♡

ハッ
みつともねえ
母親だな



おっぱい
♡

おっぱい
♡



オラッ



ゾ
♡
ゾ

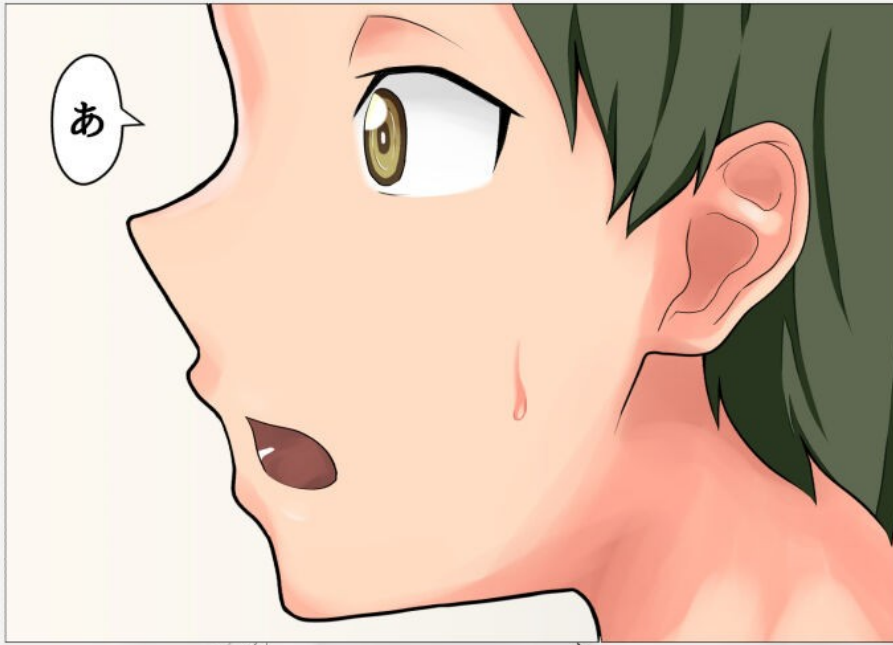


娘と変わんねえ
じゃねえか

はっ
なんだその顔

♡
♡

♡
♡



む、娘…？



床に誰か…え…



う、うそだ

そんなわけ…

ミ、ミアな

ミアな
訳ない…



家に帰ってから
僕はすぐにベッドへ
潜り込んだ

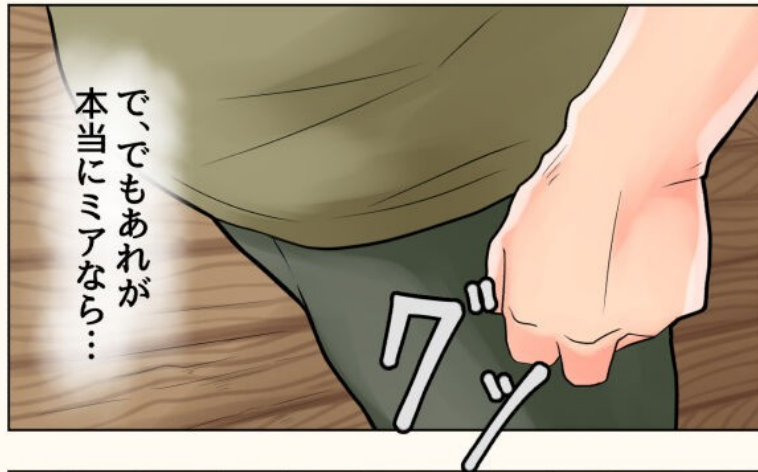
眠ろうとしても
あのと見えた光景が
目に焼き付いて離れない

あれはミア
だったのだろうか

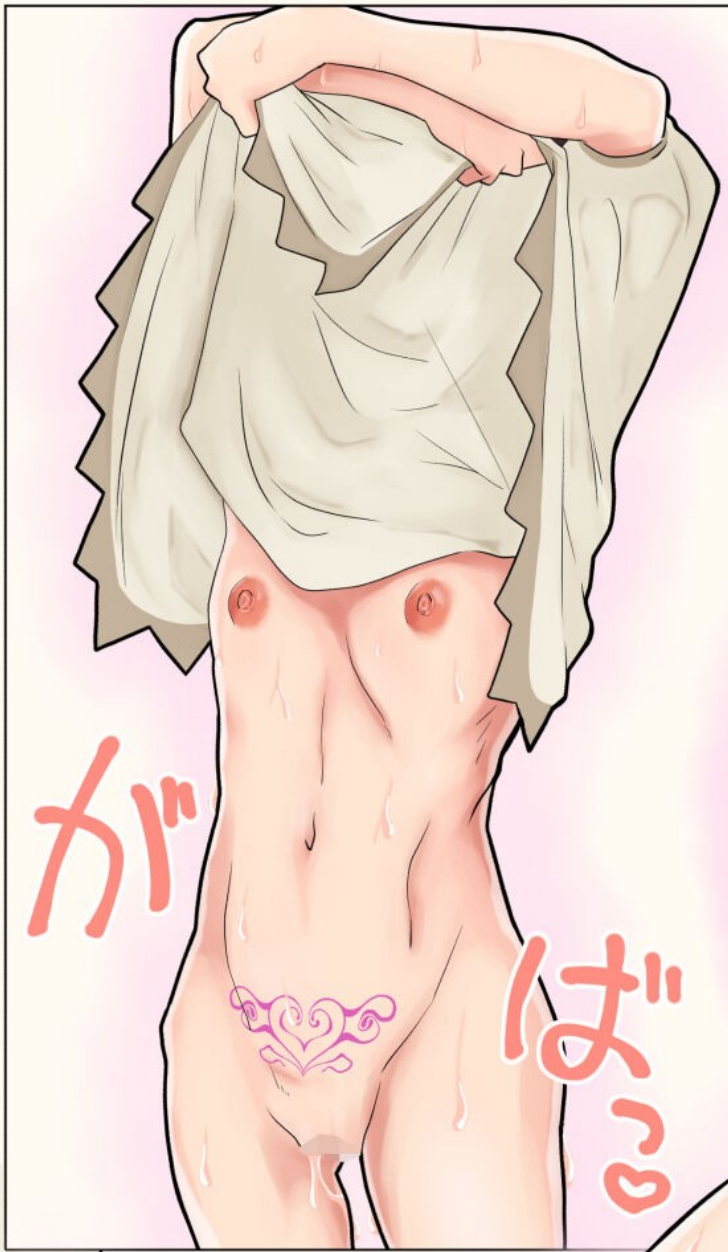
そうだとしたら
どうして…











が

ばい♡

ひゅ♡

じやらんっ♡

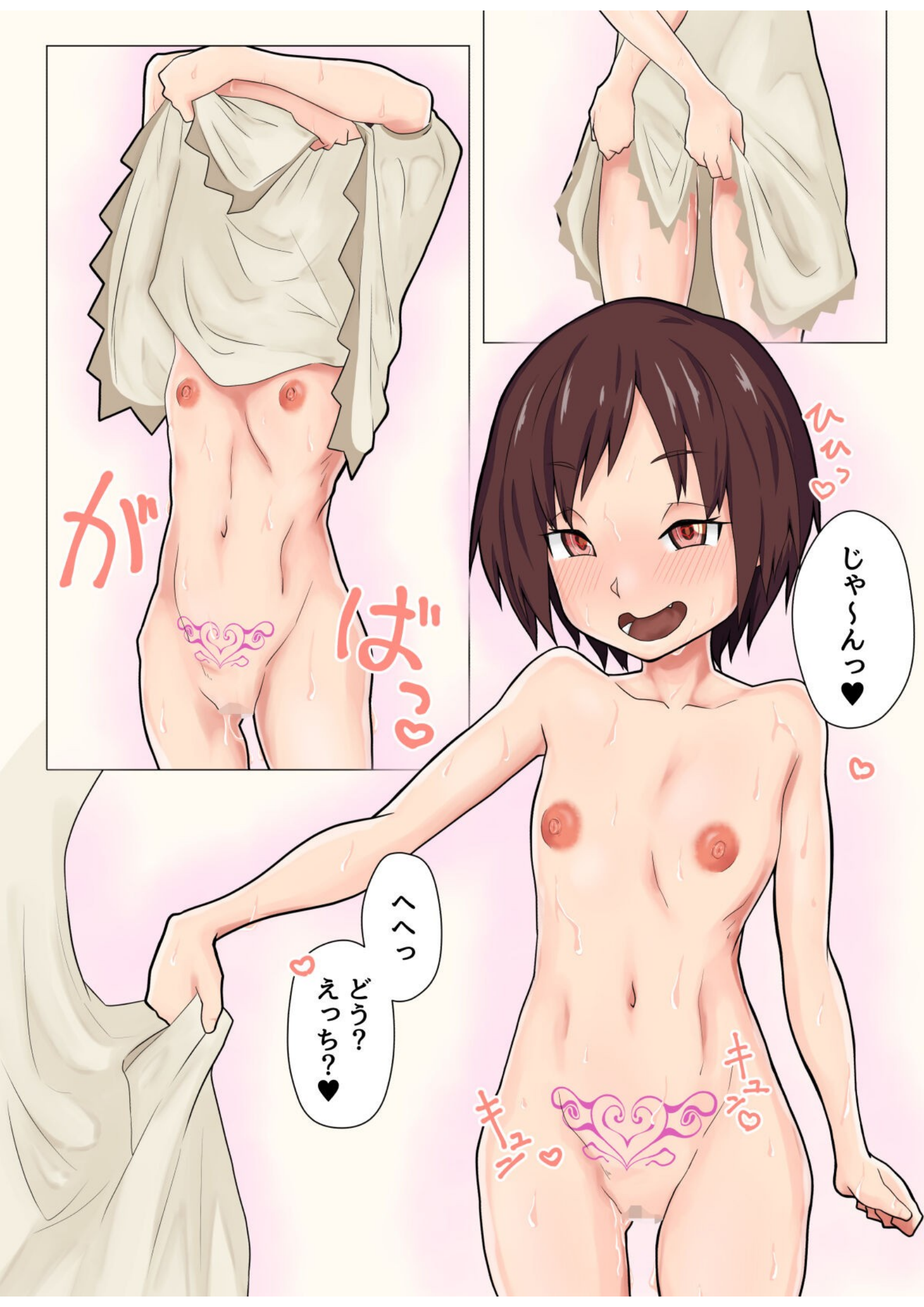
♡

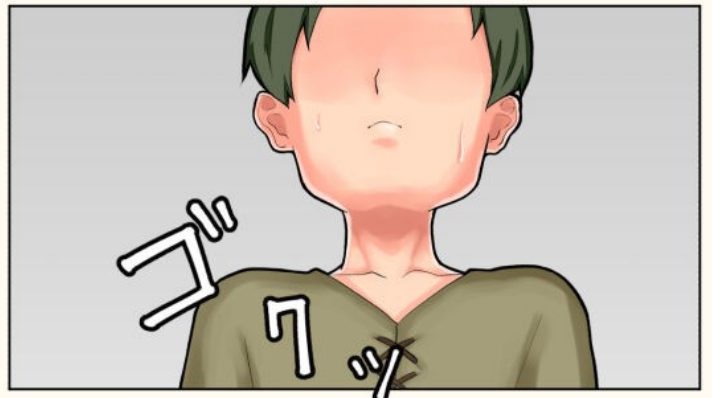


えっちゅっ♡
どぶっ?..
えっちゅっ♡

へっ♡

きゅ♡
きゅ♡





あ、これ？

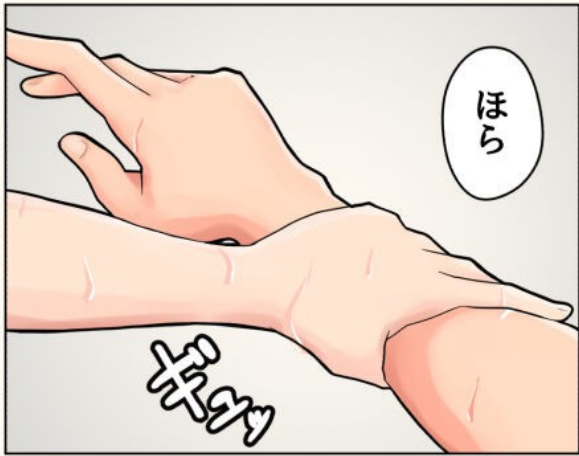
そ、その模様って…

これはね…勇者さまがつけてくれたの♡

魔術印って呼ぶらしいんだけど

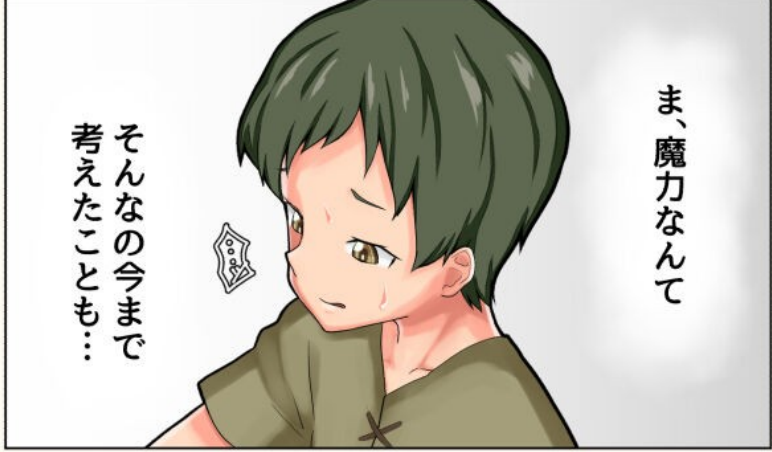
これに魔力を通されるとね…♡

すっごい気持ちいいんだよ♡



テルもやってみる？

こっちは…



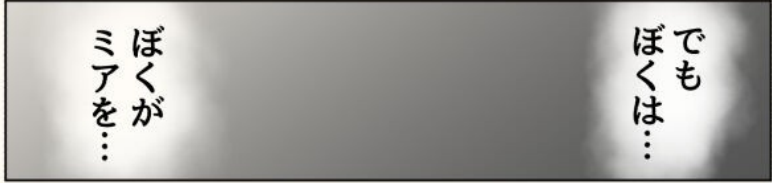
ま、魔力なんて

そんなの今まで
考えたことも…



自分の中にある
魔力を想像して
ここに流すの♡

ほら♡
やってみて♡



でも
ぼくは…

ぼくが
ミアを…



…っ

ミアっ
ぼ、僕っ



あっ♡

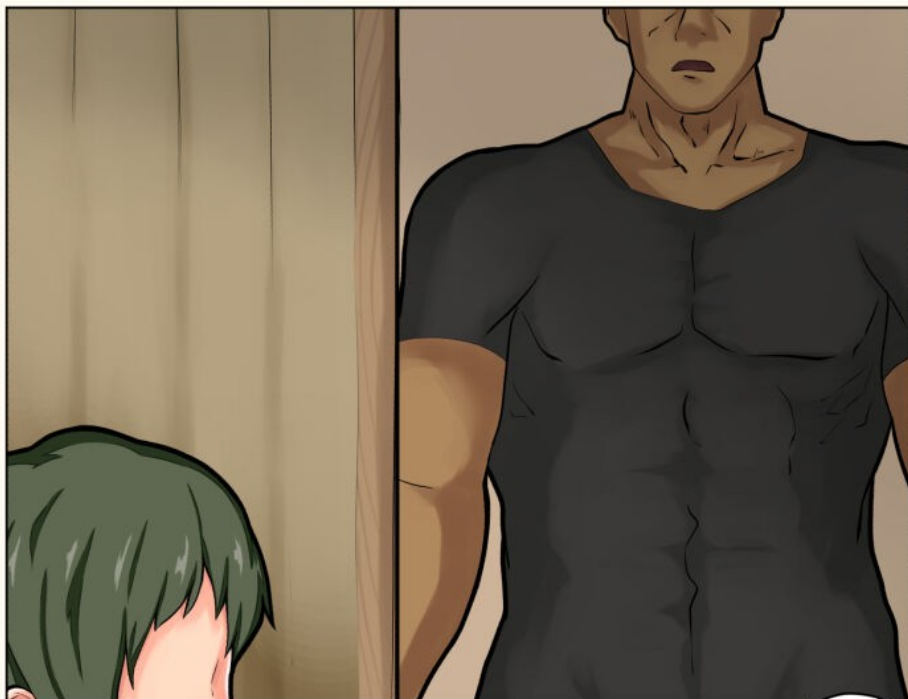
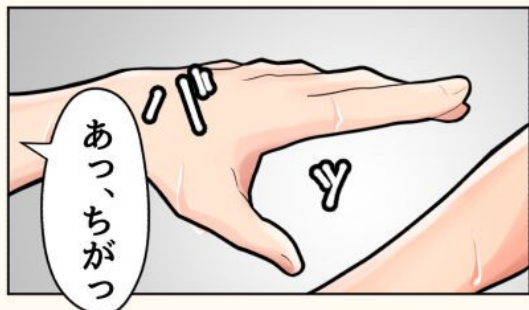
あはっ♡
テル、魔力
あつたんだね♡

ちよつと気持ちよくなつちやつた♡



僕ミアの…

何やってんだ、ミア





お前は誰の物だ？
ああ？

じゃあなんで
勝手に男
連れ込んでんだ？

なんならそいつと
一緒になるか？
もう二度とこんな
してやらねえぞ？

や、やらっ
やらあ

んぐっ

ごっ♡ごめっ♡
ごめんなしやいっ♡

ゆっ、ゆうしやさまっ♡
ゆうしやさまのですっ♡

おっ♡おひゅっ♡

ゆうしやさまっ♡
ゆうしやさまが
いらっ♡



…ったく

使ってほしいなら
そいつの前で
いつもやってる
みたいにやってみろ

おまえがどんな女か
教えてやれ

ぱんぱん♡

っ♡

ぱん♡

ぱん♡

ぱん♡



はははっ♡

ごごめんね
テルっ♡

でも
ゆうしやさまがっ♡

ゆうしやさまが
やれって言うから…♡



おひゅっ♡

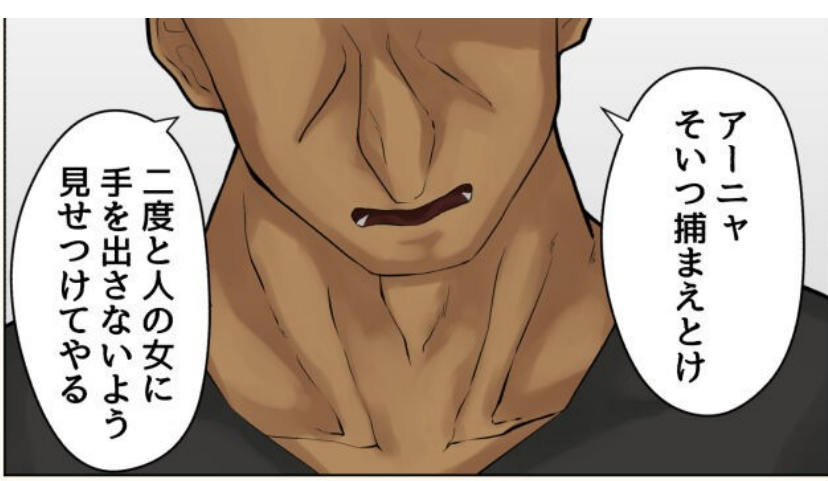
ごちやごちや
言っつてねえで
早くやれ

ごごめんさっ♡



ひびきっ♡





アーニヤ
そいつ捕まえとけ

二度と人の女に
手を出さないよう
見せつけてやる



アーニヤさんっ



ほら
お前も
言ってみてやれ



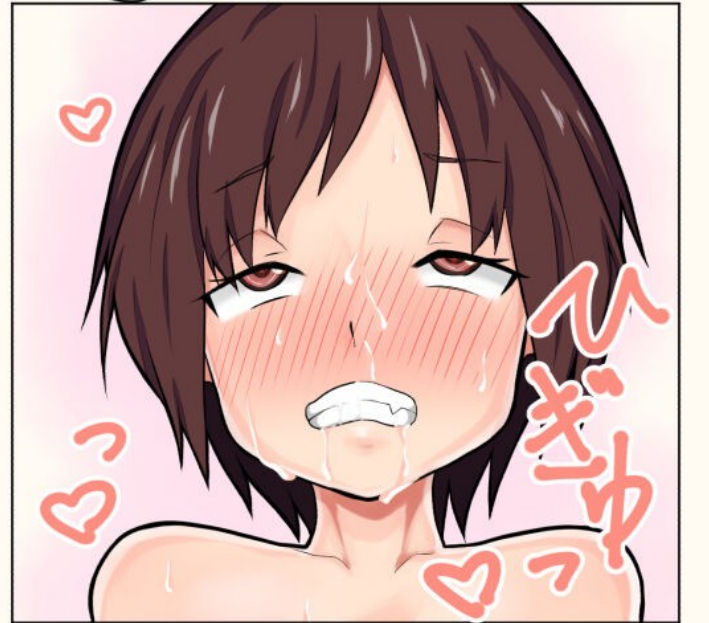
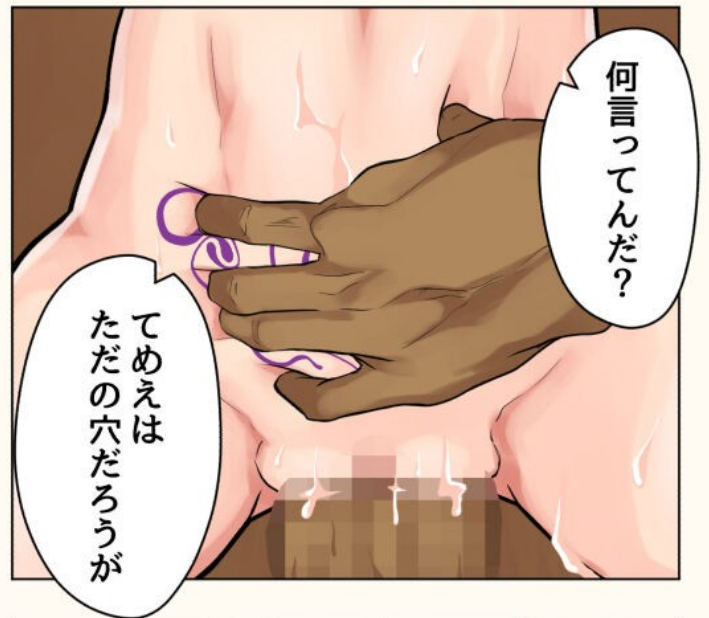
テ、テルっ♡

わたし勇者さまの
女にされちゃったっ♡

ごめんねっ♡

テルの事
好きだったけどっ♡

勇者さまのおちんちんで
性処理まんこに
されちゃったっ♡







好きな娘盗られて♡

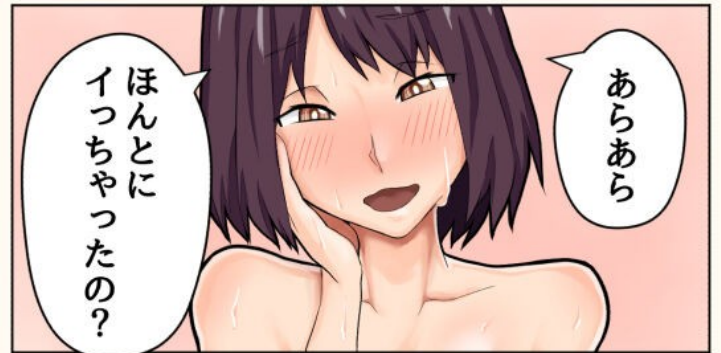
いつちやえっ♡

フェ

ひゅ

ズ
ズ
ズ
ズ
ズ







僕は勇者に道具のように
使われる彼女たちを
ただ見続けた

その場から
逃げ出すことすら
出来なかった

勇者は何の躊躇いもなく
自らの精子を彼女達の
膣内に吐き出し



彼女達はそれを
喜んで受け入れた





蕩けた顔で
勇者の精液を嚼る



その唇で勇者の
尻穴に吸いつき



そんな姿を見て
僕は…僕は…



好きだった娘が
ただの穴として
使われていく

：僕はそれをただ
最後まで見ていること
しかできなかった



僕がミアに会うことは
もう二度とないだろうから…

けれども
僕は見送りには
行かなかった



次の日
勇者はミア達を連れて
王都へ帰っていった

◆その後のミアとアーニャ



誌名 勇者が僕の村に来た。
著者 西鷺めん

18歳未満の方の購入、閲覧を禁止します。
この本はフィクションです。実際の人物や団体などには一切関係ありません。
この本の内容の一部または全部を無断で複製、複写、転載することを禁じます。

